

<再評価>

事業名 (箇所名)	総合流域防災事業(福井川)	担当課 担当課長名	河川整備課 香川 忠司	事業 主体	徳島県
実施箇所	徳島県阿南市福井町				
該当基準	再評価実施後一定期間(5年間)が経過している事業				
事業諸元	全体計画延長 L=6,500m、(築堤V=100,000m ³ 、河道掘削V=448,100m ³ 、護岸L=12,240m、橋梁等)				
事業期間	昭和56年度～令和17年度(西暦1981年度～2035年度)				
総事業費(億円)	100.0億円	残事業費(億円)	19.7億円		
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景> 過去の浸水実績 ①被災頻度:H10 5月豪雨(床下56戸,床上3戸),H15 7月豪雨(床下96戸,床上49戸),H20 4月豪雨(床下79戸,床上2戸),H20 6月豪雨(床下56戸,床上7戸),H26 台風12号(床下49戸,床上30戸),H28 台風16号及び豪雨(床下23戸,床上0戸) ②最大浸水戸数 :145戸 [H15(7月豪雨)] ③最大農地浸水面積:165.3ha [H20(4月豪雨)]</p> <p>・福井川流域は福井川沿いの平地に人口や資産が集中しており、地盤高が計画高水位より低いことから洪水が発生した場合甚大な水害の被害を受ける。 ・平成26年台風12号では、床下49戸、床上30戸などの甚大な家屋浸水被害や緊急輸送路である国道55号が途絶する等の被害を被っており、河川改修を計画的に進め、流下能力の向上を図る必要がある。</p> <p><達成すべき目標> ・河川整備計画目標規模(年超過確率1/50)の洪水を安全に流下させる。</p>				
便益の主な根拠	浸水軽減戸数:197戸 浸水軽減面積:104.5ha				
事業全体の投資効率性	基準年度	令和7年度			
	B:総便益(億円)	787.6	C:総費用(億円)	244.3	B/C 3.2
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	24.6	C:総費用(億円)	15.8	B/C 1.6
感度分析	残事業(B/C)		全体事業(B/C)		
	残事業費(+10%~-10%)	1.4 ~ 1.7	3.2 ~ 3.2		
	残工期(+10%~-10%)	1.5 ~ 1.6	3.2 ~ 3.2		
	資産(+10%~-10%)	1.7 ~ 1.4	3.5 ~ 2.9		
事業の効果等	<p>・河川整備計画目標規模の洪水に対して、浸水家屋の197戸が解消され、氾濫面積約104.5haが軽減される。 ・事業実施前には災害時要援護者が246人、最大孤立者数が472人(避難率0%)、電力停止による影響人口が438人と想定されるが、事業実施によりこれらが解消される。 ・想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表済みであり、住民の水害リスク意識向上を図っている。</p>				
社会経済情勢等の変化	地域の協力体制: 事業促進要望が強く、地域の協力体制は良好である。 地域の事業に対する社会的評価: 近年も未整備区間では浸水被害が発生しており、地元からの期待が高まっている。				
事業の進捗状況	・昭和56年度より事業に着手し、現時点の進捗率は80%(事業費ベース)である。				
事業の進捗の見込み	内歩橋上流までの用地は完了しており、事業進捗に大きな支障はない。				
コスト縮減や代替案立案等の可能性	各事業の設計段階では比較検討を行い、施工段階では掘削土等の有効活用をすることでコスト縮減を図る。				
対応方針(案)	継続				
対応方針理由(案)	近年でもH26年台風12号による浸水被害を受けており、同規模の洪水が発生した場合、未整備区間の浸水は解消されないため、現段階においても、事業の必要性は変わっておらず引き続き事業を継続することが妥当と考える。				
その他	参考B/C 4.8(2%)、6.0(1%)				